

アスレティックトレーニング学 — この学会が目指すところ

山本 利春

国際武道大学・体育学部

我が国におけるアスレティックトレーナーの活動範囲と内容は年々拡大しており、それに伴い社会的にも認知されつつあり、スポーツ界の期待も高まってきている。アスレティックトレーナーは、将来を見据えて、学術、職能に関する組織的な活動の推進が必須であるものとする。この時代背景のもと、日本アスレティックトレーニング学会はアスレティックトレーナーが関わる全ての領域の科学的研究とその発展に寄与するとともに、会員相互の連携と情報交換、関連機関との交流によって、アスレティックトレーナーの社会的認知を高め、スポーツおよびスポーツ医科学の普及・発展に寄与することを目的として設立された。

学会とは、学者相互の連絡、研究の促進、知識・情報の交換、学術の振興を図る協議などの事業を遂行するために組織する団体とされている。学会の設立にはいくつかの意義が存在する。一つは研究の交流の場であり組織である。交流によって国内と世界の研究成果を共有することができる。二つ目は研究成果を国内外に向けて発信することである。三つ目は後継者を養成し、教育する場の中心となることである。研究成果、知的財産をいかに次世代に伝えるか、それを担うのは教育機関である大学や大学院が大きな役割を果たすわけであるが、その学科や専攻の設置は学会のない学問には実現できないし、発展も難しい。そういう意味で教育と研究というのは常に手を携えて進むものであり、学会の果たす役割は大きいといえる。

米国におけるアスレティックトレーナーの統括団体である National Athletic Trainers' Association (NATA) は、競技者および身体活動を行う人々に対する健康管理の質の向上、および外傷・障害の予防、評価、処置、リハビリテーションの領域において教育と研究を通してアスレティックトレーナーの職業的発展を図ることを理念としている。また、アスレティックトレーナーは、医師および関連する専門職と協力して、高校、大学、プロの競技者の健康管理に当たるだけでなく、近年では広い意味で身体活動を行う人々の健康管理も実践する専門家として認知されている。そして、その専門領域は「アスレティックトレーニング」と呼ばれている。

今後正しい定義を提示していく必要があるが、「アスレティックトレーニング学」とは、スポーツに関わる人々におけるスポーツ傷害の予防とケア、そしてパフォーマンス向上を目的として、学際的な研究成果とスポーツ現場における実践とを融合させることを目的とした応用科学の学問体系であるといえる。

当学会は、学際的な学問的領域としての「アスレティックトレーニング学」の概念、歴史、方法といった基本的な研究課題のみならず、実践に根ざした応用的研究課題に取り組むことが重要であると考え。ただし、アスレティックトレーニング学をひとつの応用科学の領域として発展させるためには、基礎研究であっても、臨床研究または実践研究であっても直接的、間接的にアスレティックトレーニングの実践との関連性に視点を有することが大切である。

現場で実践的に活動するアスレティックトレーナーにとって、どのような要素（情報、知識、判断材料、データ、システム案等）が必要となり、どのような課題が存在し、求められているのか、などを整理し、本学会がどの領域の問題解決や情報提供・交換・発信の一端を担えるのかを考えていく必要がある。現場での活動に関わる話題や領域は数多く存在する。すなわち、アスレティックトレーナーの技術（機能改善の手法、科学的裏づけなど）、教育（人材育成、資格、資質向上など）、立場（社会的役割、職域拡大など）、活動（実践報告、連携、応用事例など）などである。これら全ての領域がアスレティックトレーニング学の範囲であり、アスレティックトレーナーが活動する際に関わる、様々な課題が存在するといえよう。

学会設立の意義と我々が目指すべきものは何か。アスレティックトレーニング学の体系化、そして研究意義を知り共有することがキックオフであると思う。